Umehara Elementary School
梅原小学校 学校だより
令和５年　１月号

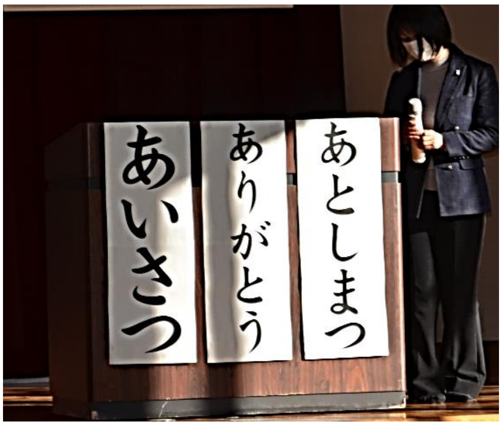
梅原の子

やさしさをつなげ、広げる「梅原の子」に
合い言葉は、３つの「あ」

明治時代以降、満 20 歳とされてきた成人が見直され、2022 年 4 月 1 日から「成人に達する年齢」が 20 歳から 18 歳に引き下げられました。令和 5 年は、成人年齢引き下げ後、初めての「成人の日」を迎えたことがニュースでも多く取り上げられていました。

18 歳で成人を迎える子どもたちには、人の役に立つ、中身のある人間として成長してほしいと願っています。

1 月 10 日には、第 3 学期始業式を行いました。その中で「3 学期は、やさしさをつなげて広げられる梅原小学校の子どもが増えてほしいと思います。」という話をしました。友だちを励ましたり、ほめたり、仲よくしたり、助け合ったりすると、やさしさがつながり、広がっていきます。やさしさがつながれば、自分も相手もニコニコ笑顔になり、心には温かなお日様が宿ります。いいことばっかりがつながって増えていくのです。



そのポイントとなるのが、３つの「あ」です。

●「あいさつ」は、人と人とが関わる基本です。そのあいさつを通して「役に立ちたい」という思いが行動として定着することは、何者にも代えがたいことです。

●「ありがとう」は、自分と人との関わりを肯定的にとらえ、相手に感謝できる状態です。まさに、自分も相手もニコニコ笑顔にするつながりを生む言葉です。

●そして、「あとしまつ」。これについては、「倫理研究所」の創設者丸山敏雄氏の話を紹介します。

丸山氏が生涯を通して取り組んだことが「後始末」なのだそうです。たとえば、使ったものは元の場所に戻す・散らかしたら片付ける・ひとつのことが終わったら反省して次に生かす・「後始末」とはそういう意味です。

靴を脱いだらそろえる。あるいは靴箱にしまう。席を立ったら椅子を入れる。

使った傘は滴を落としてから所定の場所に置く。タオルを使った後は端をぴんと引いて整える。

ホテルを出るときには入室したときと同じように寝具を美しく整え、洗面所の水滴をふき取る。

本を読んだら読みっぱなしにせず読後感をつける。映画を見たら見っぱなしにしないで感想を残しておく、等々。

「後始末は意識しないとできない。しかしやっていくとだんだん楽しくなっていく。」のだそうです。そして、「後始末の人生」を心がけていくと、不思議といろいろなことに気づける人になります。「この店は窓がきれいに拭いてある。」とか「あの店員の所作は素晴らしい」など。

成人年齢引き下げにより身近になった大人に向けて、将来に渡って発揮できる自分という人間の生き方の礎を、３つの「あ」の実践で築いていけるよう取り組んでいきます。